33

コロトコフ法による血圧測定の普及

藤倉一郎
一期会藤倉病院

Yanovskyは Korotkovの聴診法による血圧測定を高く評価し、教室員の Krylov, Vestervik, Mansvetova, Levedevらに臨床的な研究テーマとして与えた。とりわけ Krylovはもっとも熱心に粘り強く研究した。

Krylovは一八九七年ドン・コサックの家族にうまれ陸軍軍医大学を卒業後ノボチェルカッスクの病院でインターンを終えて一九〇三年 Yanovskyの教室に入った。日露戦争から帰還すると心臓病を主に研究した。九年間にわたって触診法、聴診法、振動法で動脈圧測定の比較研究をした。Korotkov音の現象を調べ、その発生機構を研究し一九〇六年「Korotkovの聴診による血圧決定について」の論文を発表した。また一九三五年には「Korotkov音の歴史と重要性について」を出版した。Yanovskyの教室の Krylov, Langその他の研究者は Korotkovの発見した音が四相からなることを示した。第一相　初期音、第二相　雑音、第三相　最終音、第四相　軟音

第四相は Krylovによって詳細に研究され一九一二年第四回ロシヤ治療学会において報告された。Krylovは Yanovskyの弟子たちとともに Korotkovの発見の進展にかなり寄与した。このために聴診法による血圧の測定を Korotkov-Yanovsky-Krylov法と呼んだこともあった。

一九〇六年後半 Korotkov法は陸軍病院外に広まり、ヨーロッパにまでおよんだ。特にワルシャワの V.E. Yanovskyの教室で盛んだった。

一九〇七年四月ウィスバーデンで第二四回国際内科学会が開かれた。フランセンバードの B Telnerは「収縮期圧と拡張期圧の進歩」を報告した。そして聴診法による血圧測定が彼自身の発見であると主張した。「ロシヤの医師がわたしの方法と同じ聴診法で血圧を測定したと言われているが詳細については知らない。Riva Rocciの血圧計を用いて聴診法により血圧を測定

したという論文は見当たらない。」

Telnerの報告に対してV Yanovskyは次のように発言した。「Telner氏の報告した聴診による血圧測定は一年以上前から、わたくしは知っています。一九〇五年末にペテルブルグのKorotkovによって研究され、実施されたものです。ペテルブルグのKrylovがこれをさらに追加研究しました。Korotkovの聴診法は聴診器を用いています。ワルシャワのわたしの教室でも、この研究が進められEttingerによって八か月前から使われています。」

こうしてロシヤのプライオリテーは確立された。

一九〇八年Korotkov法はLang, Mansvetvaの研究報告「血圧測定の臨床的方法の問題について」により海外に普及した。Korotkovの発見は新しい研究の動機にもった。一九〇七年仏のAmbard, Beaujerdは聴診法を用いて、高血圧と食塩の過剰摂取の関係を見出した。

一九一〇年米国のGittingsは「Korotkovは聴診法による血圧測定を開発した。彼の方法はヨーロッパで徹底的に研究され現在一般に認められている。この研究はまだ終わっていない」と述べている。

Korotkovの国際的な評価は一九一六年ErlangerのAmerican Physiological Journalに方法についての賛意が書かれ、一九二三年にAbderhaldenによって一般向けの「生物学的研究の参考書」の中に取り上げられてから、急速に高まった。

一九三九年米国心臓学会と英国心臓学会がKorotkov法を血圧測定の標準法に決定した。

一九四一年LewisはKorotkovの論文を英訳して出版した。